



2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年8月13日

上場会社名 オイシックス・ラ・大地株式会社

上場取引所 東

コード番号 3182 URL <http://www.oisixradaichi.co.jp>

代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）高島 宏平

問合せ先責任者（役職名）執行役員管理本部本部長（氏名）山中 初（TEL）03(6867)1149

四半期報告書提出予定日 2019年8月14日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		EBITDA(※1)		親会社株主に帰属する四半期純利益(※3)	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	16,265	△3.5	543	△11.0	755	△6.6	270	△49.7
2019年3月期第1四半期(※2)	16,853	75.5	610	331.2	808	152.2	537	638.7

（注）包括利益 2020年3月期第1四半期 240百万円（△55.0%） 2019年3月期第1四半期 535百万円（636.7%）

（※1）EBITDAは、営業利益+減価償却費+のれん償却額としています。

（※2）前年同期（2019年3月期第1四半期）の業績には、当時連結子会社であったらでいっしゅぼーや株式会社（2月決算、2018年10月に吸収合併）の4ヵ月間の損益（2018年3月1日から6月30日まで）を含んでおり、2018年3月の損益を除外した3ヵ月間の業績と比較すると、売上高は6.6%の増加、営業利益は0.5%の増加、EBITDAは2.3%の増加、親会社株主に帰属する四半期純利益は42.0%の減少となります。

（※3）前年同期の親会社株主に帰属する四半期純利益は、らでいっしゅぼーや株式会社の法人税等の計算上、多額の減算調整により税務上の所得金額が小さくなり、かつ、同社では繰延税金資産の計上を行っていないことから法人税等の費用負担額が抑えられたことなどの特殊要因により、通常よりも利益率が上昇しておりました。

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	8.05	7.98
2019年3月期第1四半期	16.20	15.88

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	22,739	12,750	56.0
2019年3月期	22,749	12,505	54.8

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00
2020年3月期	ー	ー	ー	ー	ー
2020年3月期（予想）	ー	0.00	ー	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		EBITDA		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	70,000	9.3	2,200	△4.9	3,200	1.4	1,000	△58.1	29.77

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年3月期1Q	33,641,316株	2019年3月期	33,595,156株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	3,780株	2019年3月期	3,780株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年3月期1Q	33,611,321株	2019年3月期1Q	33,167,229株

(注) 当社は2018年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期中平均株式数(1Q)を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の景気対策などの効果もあり緩やかな景気回復基調で推移したものの、個人消費におきましては、依然として先行きが不透明であり、お客様の選別の目が一段と厳しくなってきました。

近年のEC業界においては、スマートフォンの一層の普及やSNS等を活用した販売経路の多様化が進む中で、市場における価格・サービス競争は激しさを増しており、配送員等の人手不足を背景とした物流コストの上昇や、大手流通における食品宅配サービス事業への参入など、取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

一方で、共働き世帯の増加や健康志向の上昇など、ライフスタイル・価値観の変化に伴う消費者ニーズがますます多様化する中、近年、国内においてはミールキット市場が拡大しております。また、当社の主たる事業領域である安全性に配慮した食品業界においては、安心・安全に対する消費者の意識が引き続き高い状況にあります。

このような環境の中、当社は、2018年2月に会員制食品宅配事業において約30年の歴史を持つらでいっしゅぼーや株式会社を全株式を株式会社NTTドコモより取得し、同社を子会社化、両社のシナジーを最大限に発揮するため、同年10月には合併による経営統合を行い、国内の食品EC市場において、既存サービスであるO i s i x及び大地を守る会に、らでいっしゅぼーやを加えた3ブランドの独自性・競争優位性の確立に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は16,265,146千円（前年同期比3.5%減）となりました。利益面では、営業利益は543,057千円（前年同期比11.0%減）、EBITDAは755,354千円（前年同期比6.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は270,416千円（前年同期比49.7%減）となりました。

なお、前年同期（2019年3月期第1四半期）の業績には、らでいっしゅぼーや株式会社の4ヵ月間の損益（2018年3月1日から6月30日まで）を含んでおり、2018年3月の損益を除外した3ヵ月間の業績と比較すると、売上高は6.6%の増加、営業利益は0.5%の増加、EBITDAは2.3%の増加、親会社に帰属する四半期純利益は42.0%の減少となります。

①宅配事業（O i s i x）

インターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業（O i s i x）においては、今年3月から実施したテレビCMを始めとする大規模なプロモーション施策およびテレビパブリシティの影響により、ミールキット「Kit Oisix」コースを中心に定期宅配サービス「おいしくすくらぶ」の会員数が大きく増加し、前連結会計年度末（2019年3月末）の205,976人から、当第1四半期連結会計期間末（2019年6月末）には225,553人となり、売上高の増加に大きく寄与しております。一方で、成長の加速に向け上記のプロモーション施策を実施したことによりセグメント利益は減少しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	8,308,347千円（前年同期比21.0%増）
セグメント利益	933,912千円（前年同期比3.8%減）

②宅配事業（大地を守る会）

カタログやインターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業（大地を守る会）においては、獲得した顧客が継続して買い続けられるようなサービス構築が不十分であるため、非効率的なチャネル経由の集客を抑制し、“ちゃんとした食生活”のコンセプトのもと、ユーザーニーズに沿った商品・サービスの進化に注力しております。この結果、購入頻度・購入単価ともに上昇しておりますが、会員数は前連結会計年度末（2019年3月末）の40,210人から、当第1四半期連結会計期間末（2019年6月末）には38,571人へ減少しており、売上高、セグメント利益ともに減少しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	2,587,264千円（前年同期比 6.6%減）
セグメント利益	369,588千円（前年同期比 5.7%減）

③宅配事業（らでいっしゅぼーや）

カタログやインターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業（らでいっしゅぼーや）においては、単価の低い赤字受注の削減による利益構造良化、および獲得した顧客が継続して買い続けられるようなサービス構築に向け、新規会員獲得のための販売促進費を抑制し“料理が楽しくなる食料品店”のコンセプトのもと、新しいばれっとラインナップのリリースなどサービスの進化に注力しております。この結果、購買単価は上昇しましたが、会員数は、前連結会計年度末（2019年3月末）の63,461人から、当第1四半期連結会計期間末（2019年6月末）には61,507人へ減少しており、売上高、セグメント利益ともに減少しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	3,770,624千円（前年同期比 35.1%減）
セグメント利益	688,379千円（前年同期比 33.2%減）

なお、前年同期（2019年3月期第1四半期）の業績には、4ヵ月間の損益（2018年3月1日から6月30日まで）を含んでおり、2018年3月の損益を除外した3ヵ月間の業績と比較すると、売上高は12.3%の減少、セグメント利益は11.4%の減少となります。

④その他事業

当セグメントは、ソリューション事業、店舗事業、海外事業、卸事業等からなるその他事業であります。ソリューション事業および店舗事業が順調に推移した結果、売上高、セグメント利益ともに増加しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	1,663,194千円（前年同期比12.2%増）
セグメント利益	248,203千円（前年同期比69.8%増）

なお、前年同期（2019年3月期第1四半期）の業績には、らでいっしゅぼーや株式会社の卸事業にかかる4ヵ月間の損益（2018年3月1日から6月30日まで）を含んでおり、2018年3月の損益を除外した3ヵ月間の業績と比較すると、売上高は19.3%の増加、セグメント利益は60.6%の増加となります。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して9,844千円減少し、22,739,640千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して42,352千円増加し、16,644,151千円となりました。これは主に、売掛金の増加279,783千円、未収入金の増加94,224千円、現金預金の減少312,322千円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して52,197千円減少し、6,095,489千円となりました。これは、有形固定資産の増加134,554千円、無形固定資産の減少103,653千円、投資その他の資産の減少83,098千円によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して254,889千円減少し、9,989,375千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して234,817千円減少し、9,215,182千円となりました。これは主に、買掛金の増加107,969千円、未払金の減少280,667千円、未払法人税等の減少97,605千円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して22,071千円減少し、774,192千円となりました。これは主に、長期借入金の減少1,503千円、リース債務の減少5,618千円、資産除去債務の減少9,528千円によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して245,044千円増加し、12,750,265千円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益270,416千円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月14日付「2019年3月期決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想は当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,136,173	7,823,851
売掛金	5,555,456	5,835,240
商品及び製品	1,173,552	1,120,226
仕掛品	45,077	92,631
原材料及び貯蔵品	184,228	185,270
未収入金	1,308,693	1,402,918
その他	394,685	390,256
貸倒引当金	△196,069	△206,244
流動資産合計	16,601,798	16,644,151
固定資産		
有形固定資産	1,007,751	1,142,305
無形固定資産		
のれん	1,137,486	1,041,891
その他	1,009,106	1,001,047
無形固定資産合計	2,146,592	2,042,939
投資その他の資産	2,993,343	2,910,244
固定資産合計	6,147,686	6,095,489
資産合計	22,749,485	22,739,640
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,240,280	4,348,249
1年内返済予定の長期借入金	9,552	8,667
未払金	3,649,938	3,369,271
未払法人税等	255,659	158,053
賞与引当金	-	1,931
ポイント引当金	145,468	156,918
資産除去債務	-	10,351
その他	1,149,101	1,161,740
流動負債合計	9,450,000	9,215,182
固定負債		
長期借入金	53,404	51,901
リース債務	42,289	36,671
役員退職慰労引当金	4,500	4,800
資産除去債務	296,218	286,690
その他	397,852	394,130
固定負債合計	794,264	774,192
負債合計	10,244,264	9,989,375
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,284,022	1,286,253
資本剰余金	5,298,392	5,300,623
利益剰余金	5,897,781	6,168,197
自己株式	△2,800	△2,800
株主資本合計	12,477,395	12,752,273
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,284	△9,602
為替換算調整勘定	△8,274	△18,708
その他の包括利益累計額合計	△4,989	△28,310
非支配株主持分	32,815	26,302
純資産合計	12,505,220	12,750,265
負債純資産合計	22,749,485	22,739,640

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 （四半期連結損益計算書）
 （第1四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）
売上高	16,853,520	16,265,146
売上原価	8,914,488	8,552,742
売上総利益	7,939,032	7,712,403
販売費及び一般管理費	7,328,562	7,169,346
営業利益	610,469	543,057
営業外収益		
受取利息	17	70
受取配当金	4,230	0
受取補償金	3,383	2,830
資源リサイクル収入	5,432	3,103
その他	20,507	9,225
営業外収益合計	33,571	15,231
営業外費用		
支払利息	437	400
株式交付費	2,853	133
為替差損	687	7,530
持分法による投資損失	11,509	70,476
その他	2,212	1,727
営業外費用合計	17,700	80,268
経常利益	626,341	478,019
税金等調整前四半期純利益	626,341	478,019
法人税、住民税及び事業税	107,940	75,321
法人税等調整額	△19,459	138,794
法人税等合計	88,481	214,116
四半期純利益	537,860	263,903
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	579	△6,513
親会社株主に帰属する四半期純利益	537,280	270,416

（四半期連結包括利益計算書）

（第1四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）
四半期純利益	537,860	263,903
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△802	△1,779
為替換算調整勘定	△1,887	△10,433
持分法適用会社に対する持分相当額	-	△11,107
その他の包括利益合計	△2,689	△23,320
四半期包括利益	535,171	240,582
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	534,591	247,095
非支配株主に係る四半期包括利益	579	△6,513

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	調整額	四半期連結損益計算書計上額
	宅配事業 (Oisix)	宅配事業(大地を守る会)	宅配事業(らでいっしゅぼーや)	計			
売上高							
外部顧客への売上高	6,863,675	2,769,326	5,811,371	15,444,373	1,409,146	—	16,853,520
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	73,558	△73,558	—
計	6,863,675	2,769,326	5,811,371	15,444,373	1,482,704	△73,558	16,853,520
セグメント利益	970,715	391,824	1,030,935	2,393,475	146,137	△1,929,143	610,469

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソリューション事業・店舗事業・海外事業・卸事業等を含んでおります。

2. 「調整額」のセグメント利益における主な内容は、固定人件費及び各事業セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、2018年2月28日にらでいっしゅぼーや株式会社の株式を取得し、らでいっしゅぼーや株式会社を連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度より、報告セグメント「宅配事業（らでいっしゅぼーや）」を追加しております。

なお、従来、連結子会社のうち決算日が2月28日であるらでいっしゅぼーや株式会社については同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については必要な調整を行ってまいりましたが、当第1四半期連結会計期間より、当該子会社については連結決算日に本決算に準じた仮決算を行う方法に変更しております。

この変更により、当第1四半期連結累計期間は、2018年3月1日から2018年6月30日までの4か月間を連結しており、仮決算を行う当該子会社の2018年3月1日から2018年3月31日までの売上高は宅配事業（らでいっしゅぼーや）セグメントが1,508,490千円、その他事業が88,844千円、セグメント利益またはセグメント損失（△）は、宅配事業（らでいっしゅぼーや）セグメントが253,820千円、その他事業が△8,446千円、調整額が△175,449千円であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他	調整額	四半期連結損益計算書計上額
	宅配事業(Oisix)	宅配事業(大地を守る会)	宅配事業(らでいっしゅぼーや)	計			
売上高							
外部顧客への売上高	8,308,347	2,587,264	3,770,624	14,666,236	1,598,909	-	16,265,146
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	64,284	△64,284	-
計	8,308,347	2,587,264	3,770,624	14,666,236	1,663,194	△64,284	16,265,146
セグメント利益	933,912	369,588	688,379	1,991,880	248,203	△1,697,026	543,057

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソリューション事業・店舗事業・海外事業・卸事業等を含んでおります。
2. 「調整額」のセグメント利益における主な内容は、固定人件費及び各事業セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。